


評価公表日：2020年6月30日

評価対象	評価符号
<p style="text-align: center;">浜銀 TT 証券</p> <p>【会社概要】 横浜銀行と東海東京証券が共同出資し、2008年11月4日に営業開始。 東海東京証券の証券業務ノウハウを活用。</p>	

【評価引き上げ】

グループ全体でいち早く FD 宣言を策定・公表し、積極的に FD に取り組んでいる。銀証連携を強化しており一定の成果が出ていることや、営業員へのサポート体制が充実してきたことなどを評価し「A」から「A+」に引き上げた。

評価のポイント

- 顧客本位の業務運営に係る方針等の策定・公表等
 コンコルディア・フィナンシャルグループ全体でいち早く「フィデューシャリー・デューティー宣言」を策定・公表し、積極的に顧客本位の投信販売 (Fiduciary Duty:FD) に取り組んでいると認められる。浜銀 TT 証券でも、本部組織の強化や各営業店で課題改善に取り組む「部店 PDCA」の推進等、独自の施策にも注力している。
- 顧客の最善の利益の追求
 「顧客の最善の利益」を追求するために必要な営業員の専門性を高める取り組みを行っている。FD を企業文化として定着させるための施策を講じていると認められる。
- 投信販売方針策定及び販売、レビュー
 銀証連携を強化、グループ内での役割を明確化しており、投信販売の増加等、一定の成果が認められる。本社からの営業支援強化や iPad の支給等、営業員のサポート体制が充実してきたことが確認できる。
- 取扱投信の選定・モニタリング
 明確なプロセスに基づき、取扱投信の選定、モニタリング、販売停止の決定が行われている。外部評価機関の定量評価を導入しモニタリングの精緻化を図っており、その成果が期待される。
- 従業員に対する適切な動機づけの枠組み等
 部店および個人の業績評価において、収益項目、基盤項目に加え FD の評価項目を導入している。銀証連携を評価する仕組みも取り入れている。2019 年度より、定量的な尺度だけでは測れない規範となる取り組みに対する個人の表彰制度を新設、今後の成果を注視していく。

「R&I 顧客本位の投信販売会社評価」について

銀行、証券会社などが、いかに投資信託の販売において「顧客本位の業務運営」を行っているか、その取組方針や取組状況を依頼に基づき、中立的な第三者の立場から評価します。投資信託の購入に際してアドバイスを必要としている個人投資家が販売会社を選ぶ際に、この評価を参考指標として利用することを想定しています。

評価符号とその定義は以下の通りです。

符号	定義
SS	顧客の最善の利益を図るための取組みが十分に行われており、非常に多くの優れた要素がある。
S	顧客の最善の利益を図るための取組みが行われており、多くの優れた要素がある。
A	顧客の最善の利益を図るための取組みが行われており、優れた要素がある。
B	顧客の最善の利益を図るための取組みが行われているが、改善すべき要素がある。
C	顧客の最善の利益を図るための取組みが不十分であり、改善すべき要素が多い。

(注) S と A については、上位評価に近いものにプラスの表示をし、それぞれ S+、A+ と表示することがあります。プラスも符号の一部です。

R&I 顧客本位の投信販売会社評価は、投信販売業務を行う金融事業者の「顧客本位の業務運営」に関する R&I の意見であり、事実の表明ではありません。十分信頼できると判断される情報源からの情報に基づき評価を実施していますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。この評価情報の利用によって何らかの損害が発生した場合、その原因がいかなるものであれ、R&I は一切の責任を負わないものとします。R&I 顧客本位の投信販売会社評価は R&I 投信定性評価・定量評価レーティングとはそれぞれ独立のものであり、互いの評価に影響を与えるものではありません。R&I 顧客本位の投信販売会社評価の業務は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第 299 条第 1 項第 28 号に規定されるその他業務（信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。